

公益財団法人日本刀文化振興協会

令和4年度事業計画

(令和4年12月1日～令和5年11月30日)

1. 公益目的事業（刀職者を対象とする事業）〈公1〉

① 第14回刀職者実技研修会

会期：令和5年8月25日(金)～27日(日)の3日間

会場：坂城町中心市街地コミュニティセンター（長野県）

参加：5職種各6～8名計約35名を予定

内容：日本刀に係る伝統技術の内、刀身作成・研磨・拵下地・金具作成・柄巻きの5職種を対象に、高度の専門職方を育成する為の技術・知識・意識教育。同時に講習の妨げにならない範囲で一般に公開し、日本刀及びこれに係る伝統技術の理解に供する。

② 日本刀に関わる人材育成技能研修事業（刀剣修復特殊技能研修事業）

（研磨・白鞘・白鞘・白銀・刀装具）※文化庁育成事業

会場（開催時期）：佐野美術館（日程未定）

講師：予定5名 研修生：予定6名

③ 第13回新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会

主催：公益財団法人日本刀文化振興協会、公益財団法人佐野美術館、長野県埴科郡坂城町、坂城町鉄の展示館

共催：信濃毎日新聞社ほか

部門：作刀、研磨、外装、押形

会場及び会期

坂城町鉄の展示館（長野県）：令和5年5月27日(土)～8月27日(日)

佐野美術館(静岡県三島市)：令和5年10月28日(土)～12月17日(日)

後援：関係省庁、長野県ほか（予定）

授賞：（特別賞）大臣賞、長野県知事賞、信濃毎日新聞社賞、坂城町町長賞ほか

内容：作刀・彫金・研磨・刀装等日本刀に係る全ての伝統技術を対象に作品を公募し、厳正な審査を実施、優れた技術を顕彰し、高水準のコンクールとする。更に、受賞作品を展示すると共に、作品集やホームページにて広報し、現代の高い技術と日本刀文化をアピールする。

作品受付 令和5年4月15日(土)～4月16日(日)

作品撮影 同 4月17日(月)～4月18日(火)

審査会 同 4月19日(水)～4月21日(金)

運営委員会 令和4年12月9日(金)

審査員選考委員会 令和4年12月

審査員会議 令和5年3月24日(金)

授賞式及び懇親会 同 5月27日(土) ※会期初日を予定

- ④ 京王プラザホテルでの「日本刀及び刀装具展示会」
会期：令和5年10月～11月で計画
一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の協力を得て「甲冑」展示も行う予定。

- ⑤ 第17回お守り刀展覧会（後援） 主催：全日本刀匠会
内容：全日本刀匠会会員製作の新作刀及び外装の審査・授賞・展観
後援内容：後援名義の交付、刀文協関係審査員の派遣等
会場：備前長船刀剣博物館、坂城町鉄の展示館

- ⑥ 東京都ものづくり「匠の技の祭典」出展(予定)

2. 公益目的事業（不特定一般向け事業）〈公2〉

① 日本刀・刀装具鑑賞会、講演会、講習会

- 1) 公開鑑賞会・・・会場及び内容を再検討しリニューアルする

開催回数：（予定）年3回

内容：日本刀・刀装具・拵等を、会員に限らず一般にも公開し広く鑑賞して貰う
鑑賞の作法を教授し、作品の解説を通して日本刀文化の普及に努めることとする。
併せて、必ず初心者を対象とした解説も加える。

新たにお刀手入れ方法教室も開催検討。

- 2) 特別鑑賞会（日本刀研究委員会鑑賞会）

開催回数：（予定）春秋各1回の年2回

会場：目白庭園「赤鳥庵」

内容：会員限定20名程度とし、日本刀・刀装具・拵等ともに名品を揃え、
より専門的な解説を行い目の肥えた刀剣ファンの研究意欲に応えられる内容とする。

- 3) 坂城町「日本刀講座」

春・秋の年2回開催。日本刀ワークショップ開催。

② 鍛錬道場見学会

・13回展日程に組み込んだものを計画してみる。

・明治神宮展サポーターティングスタッフを対象とした見学会を企画し、今後のサンプリングとして実施する。

・デアゴスティーニとの連携(関東・関西・中国地方)

2. 収益事業

① 新作日本刀・刀装具等の製作販売及び保存・修理の受託〈収1〉

長野市（松代文化施設管理事務所）、まちづくり坂城（坂城町）、紹介及び直接の
問い合わせによる研磨・修理など「日本刀お手入れ事業」を行い、新たに百貨店等
委託販売先の拡大をはかっていく。

② 「新作日本刀証明証」発行事業の拡大〈収2〉

3. その他

- ・海外での現代刀販売・研磨受託などの研究・試行
- ・文化庁に対し現代刀の海外への持ち出しが容易になるよう「新作日本刀証明証」を活用した提案を行う
- ・広報活動の強化（刀文協通信やツイッターなどの発信強化、わかりやすさの向上のためHPの改訂）
- ・文化庁への広報強化を行い、予算計上に繋げる活動の実施
- ・新規会員増強（役員全員での新規会員勧誘及び事業協賛先発掘）

以上